

第1回福岡県薬剤師会学術大会一般演題登録用紙(太枠内を記入して下さい)

申込種別	新規	申請日	10月24日
------	----	-----	--------

希望する発表分類	ポスター発表
----------	--------

筆頭演者氏名	氏名		
	氏名	谷本	愛
	フリガナ	タニモト	アイ
	薬剤師免許番号	461002	

筆頭演者所属	所属機関名	総合メディカル株式会社
	部署名	そうごう薬局 天神中央店

連絡先	住所	810-0001 福岡県福岡市中央区天神1-3-38
	電話番号	092-734-7311
	携帯番号	090-3635-8051
	E-mailアドレス	ai.tanimoto@sogo-medical.co.jp

共同演者の所属機関・部署名(10所属機関まで)	所属機関1	総合メディカル株式会社	そうごう薬局 天神中央店
	所属機関2	総合メディカル株式会社	人財育成部
	所属機関3	済生会福岡総合病院	薬剤部
	所属機関4		
	所属機関5		
	所属機関6		
	所属機関7		
	所属機関8		
	所属機関9		
	所属機関10		

共同演者の氏名・所属機関(氏名及びフリガナ)15名まで	氏名	フリガナ	所属機関番号
	下川 友香理	シモカワ ユカリ	所属機関1
	本田 雅志	ホンダ マサシ	所属機関1
	力武 志保	リキタケ シホ	所属機関1
	土屋 りえ	ツチヤ リエ	所属機関1
	平島 八恵子	ヒラシマ ヤエコ	所属機関2
	檀林 智子	マキバヤシ トモコ	所属機関3
	阿曾沼 伸一	アソヌマ シンイチ	所属機関3
	宮崎 香苗	ミヤザキ カナエ	所属機関3
	森 みなみ	モリ ミナミ	所属機関3

演題名(100字以内)	保険薬局クリニカルパス運用による外来がん薬物治療患者へのケアの質向上について
-------------	--

抄録本文(1,000字以内)	<p>【背景】 外来がん薬物治療の効果を最大限に高めるために、保険薬局においても経口抗がん剤の処方鑑査、副作用対策を十分に行い、患者のアドヒアランスを向上させるファーマシューティカルケア(以下PC)が必要である。そうごう薬局天神中央店では外来がん薬物治療患者のPCを標準化し、かつ質を向上させるために『外来がん薬物治療患者における保険薬局クリニカルパス(以下パス)』を開発、運用している。</p> <p>【目的】 今回、パス使用前後の副作用確認率、疑義照会の件数、内容を比較することでパスの有用性を検証した。</p> <p>【方法】 パス使用前の期間を2014年10月～2015年9月、使用後の期間を2016年10月～2017年9月としS-1単独療法患者への副作用の聴取状況を確認した。服用開始から3コース分の薬歴を参照し、確認すべき副作用を好中球減少、貧血、血小板減少、下痢、口内炎、悪心・嘔吐、食欲不振、色素沈着、皮疹、間質性肺炎、流涙の11項目とし、確認した副作用項目数を確認率として算出し比較を行った。また同期間中に当薬局に来院した外来がん薬物治療患者への疑義照会の件数と内容を後視的に調査した。その内容を①薬剤の適正使用についての確認(添付文書上確認が必要なこと)②服用開始日、次回受診日情報による抗がん剤処方日数調整提案③支持療法薬の残薬確認による処方削除・日数調整提案④抗がん剤、支持療法薬の処方継続の有無確認⑤アドヒアランス不良患者への支援⑥体調変化、副作用予防・発見などによる支持療法薬の提案⑦その他の7つに分類し、全体の件数とそれぞれの件数をパス使用前後で比較した。</p> <p>【結果】 S-1単独療法患者の副作用の確認率はパス使用前では平均38.8%、パス使用後は平均59.2%と有意に上昇した。また疑義照会の件数はパス使用前の61件から使用後は160件に増加し、特に①薬剤の適正使用についての確認、④抗がん剤、支持療法薬の処方継続の有無の確認、⑥体調変化、副作用予防・発見などによる支持療法薬の提案の項目がそれぞれ増加した。</p> <p>【考察】 パスを使用することで副作用の確認率が有意に上昇し、疑義照会の件数が増加した。これは薬局での外来がん薬物治療患者へのPCにおいて確認すべき事項を網羅的に確認でき、発見した問題点に対し標準的な介入ができるようになったためと考えられた。以上よりパスの開発・運用は外来がん薬物治療患者へのPCの質向上に有用であることが示唆された。</p>
----------------	---